

プログラム概要	
イベント名	Bebras Computing Challenge US 2018 (2018年ビーバーチャレンジ・英語版)
イベント内容	<p>小中高生を対象としたジュニア向けの国際情報科学コンテスト「ビーバーチャレンジ (Bebras Challenge)」の英語版(アメリカ主催)を日本でも受検できることになりました。このコンテストは、ヨーロッパを中心に普及が進んでいるコンピュータ科学と Computational Thinking に関する小中高校生向けのコンテストです。</p> <p>【問題】</p> <p>情報に関する理解、情報の表現、アルゴリズム的思考、コンピュータシステムの利用(サーチエンジン、電子メール、セキュリティ、表計算など)、組合せや離散構造、論理パズルやゲーム、ICTと社会など、さまざまなトピックからさまざまな難易度の問題が題出されます。</p> <p>ビーバーチャレンジの過去問題を www.bebraschallenge.org/examples.php で公開しています。</p> <p>【コンテスト時間】</p> <p>小学校30分、中学校・高等学校40分。1時間の授業時間内で実施できるようになっています。</p> <p>1問3分程度で解くことを想定しています。問題数は、小学校10問、中学校・高等学校12問です。(昨年度)</p>
こんな方におススメ！	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータ科学・プログラミングに関心・興味のある小中高校生 ・「英語で考える力」「自分で考えるという意識」を向上させたい小中高校生
イベント目的	小中高校生が21世紀の必須ツールである「英語とプログラミング(コンピュータ科学)」に興味をいだくきっかけとなることを目的としています。
自由記載	<ul style="list-style-type: none"> ・「ビーバーチャレンジ」は日本でも同時期に行われていますが、日本語によるものです。しかも個人で受検できません。今回アメリカ主催者側から当センターが「橋渡し役」となり、個人参加で、しかも英語でのチャレンジができるようになりました。もちろん学校・グループ単位でのご参加も可能です。日本全国、山間部の小さな町・村から、離島の学校の児童・生徒の皆様に等しくチャンスがあります。 ・チャレンジ結果は参加者にフィードバックされます。まず「参加証明書ならびに受検結果」が発行されると同時に適性を発見することができます。また、参加後にオンラインでタスクを再試行したり、別のレベルでチャレンジを試みたりすることができます。
持ち物	インターネット回線のあるパソコン（申し込み後に配られる個人アカウント）
応募条件	小学3年生～高校3年生
イベント日程	2019年11月10日または11日 *決められた解答時間内であればご都合の良い時間に受検していただけます。
開催場所	インターネット回線のあるパソコンを使用できる場所（学校、公共施設のほか自宅での受検も可）
スケジュール	申込期限 2018年11月5日
参加費	無料
応募申込	https://sapphire-tokyo.jp のApply（申し込み）
選考方法	選考なし